

NPO 法人 MAKE THE HEAVEN

2017 年度 年次報告書



目次

- 2P 目標
- 4P MAKE とは
- 6P 足跡
- 8P 植林間伐
- 16P 挑戦
- 24P 感動共有
- 30P 復興
- 34P 活動報告
- 35P サポートのお願い
- 36P 上映会主催者募集
- 37P 団体名の変更
- 38P 会計報告



"Let's keep making a story of hope"

MAKE THE HEAVEN の目標は、
一人でも多くの人の心の中に、元気や希望が増えるきっかけを創ることで。
「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」
という思いから、



私たちは、

希望の物語を

創り続けるNPOです。

みんなの「はじめの一步」をサポートし、
行動する人を増やすことによって、
お互いを応援しあい、助けあうのが当たり前になる世の中を創り、
地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やして行きます。

繋がりを大切にして、さまざまな活動を笑い楽しみながら行動することで
「いつの間にか誰かの力になっていた」
そんな新しい常識を創りながら、
一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯して行きます。

MAKE THE HEAVEN

代表挨拶



いつも MAKE THE HEAVEN を応援して頂きありがとうございます。2017 年は、いろんなことに挑戦させて頂きました。

ドキュメンタリー映画「LIFE TREASURE」製作、いっぱいのお支えを頂き映画が完成し、全国 11 箇所で開催ツアー、7 月より映画貸し出しを開始、一般から小学校、中学校、企業と上映して頂いています。

さらにメイクザヘブンと映画をいっぱいの方に知って頂きたいと日本縦断ツアーを札幌から鹿児島中央駅まで 2779 キロを歩きました。新しい出会いや出来事、人のあたたかさ、思いやりをいっぱい感じ、とても素敵な日本縦断をさせて頂きました。

植林活動では、4 月、9 月と毎年続けている中国植林活動は、日本人、中国人合計 164 人で 4660 本植樹をさせて頂きました。また香港ビーチクリーンツアーを行い、地元の方々と一緒に活動することができました。

国内では、9 月まで熊本復興支援をさせて頂き、地元の方に寄り添い、交流をさせて頂きました。

こうやってメイクザヘブンを続けていけるのも、一人ひとりの応援やメイクザヘブンの思いに共感して頂いているからだ実感しています。これからも、元氣や希望が増えるきっかけ創りを行いながら希望の物語をみんなと創り続けていきます。どうぞよろしくお願い致します。

理事長

こういちマンモス(川島 孝一)

理念

「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」という思いを大事にし、笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける活動をします。

活動概要

MAKE THE HEAVEN は、2017 年も「笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける」をモットーに活動しました。



植林・間伐プロジェクト 「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超え、みんなでチカラを合わせて植林を実践しました。また、東北では未来の津波に備えて植林&育苗を行いました。

挑戦プロジェクト「TEAM A ☆ H ☆ O」

できる、できないではなく、笑い楽しみながら一歩を踏み出すこの時の大切さを伝えるために、チームメンバー19名で過酷なアドベンチャーレースに挑戦しました。



感動共有プロジェクト「アミーゴ大作戦」

つながりを大切に、1人では難しいと思うことも、みんなで助け合って支えあうことで一緒に笑顔を増やし、みんなで喜び合うきっかけを創りました。熊本災害支援（め組 JAPAN）・香港ビーチクリーンアップ・富士登山を行いました。

※自然災害などで緊急事態が起きた場合、必要に応じて緊急支援部隊「め組 JAPAN」を発足して緊急支援及び復興支援活動を行います。

組織図

役員名簿

理事長	川島 孝一
副理事長	谷口 保
副理事長	中村 雅人 (世界一周学校校長)
理事	勝又 大輔 (ロックバンドおかん)
	池田 親生 (株式会社ちかけんプロダクツ)
	三城 賢士 (株式会社ちかけんプロダクツ)
	瀬川 映太 (一般社団法人ワンダラスライフ)
	小泉 雅央
監事	今井 健太郎 (笑顔が増える株式会社)

メイクの足跡 (2004~2017)

2004/4

NGO MAKE THE HEAVEN 設立

※環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして、世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集まり、NGO MAKE THE HEAVEN が誕生しました。

2004/8

カンボジア支援プロジェクト発足

翌年、プノンペンにカンボジア支援プロジェクト事務局を設置

※2016年までに、井戸掘り支援は915基の井戸を届ける事が出来ました。また、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育里親支援は延べ5,201人の子供達が学校に通えるようになりました。

2005/4

植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催

※2017年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、北海道、和歌山、熊本、宮城で計28回の植林ツアーを行い、延べ3,201人に参加いただき、植林本数は510,552本となりました。

2006/1

小豆島にて、げんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢楽」発足

※げんきのたね夢楽は、2011年5月末を持って6年間の活動を終了しました。2011年までに延べ1万人以上の方が参加していただきました。

2008/4

植林プロジェクト→「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」に

植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一円募金プロジェクトを開始

※2017年までに、944人の一円ヒーローが誕生しました。

2009/11

映画「107+1 ~天国は作るもの~ Part2」完成 / 公開

当法人前理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1 ~天国は作るもの~ Part2」が完成及び公開

※2014年までに、同映画 Part1 と合わせて自主上映による観客動員数が約22万人になりました。

2015年からは Part1、Part2 とともに自主上映を終了し、DVD化して販売しました。

※映画配給、DVD販売元は有限会社クラブ・サンクチュアリ

2010/4

間伐プロジェクト開始

※2014年までに静岡、山梨、熊本、奈良、宮城、和歌山で計9回間伐ツアーを行い、延べ492人に参加いただき、800本のスギ、ヒノキを間伐しました。

2010/5

ロックバンドおかんと専属事務所契約

※2013年4月大阪城ホールでロックバンドおかん単独公演を実施し、約6千人が来場。大阪城ホールの単独公演成功を持って、MAKE THE HEAVEN から独立しました。

2010/8

NGO から香川県の特定非営利活動法人 (NPO 法人) に認証

※現在は、神戸市の特定非営利活動法人 (NPO 法人) 認証済み。

2011/1

カンボジアくっくま孤児院運営開始

※2014年までに延べ2万人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加していただきました。

2011/3

東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足

2011/6

送電線国有化のための署名募集開始

※2012年10月までに179,820名分の署名をいただき、経済産業省に届けました。

2011/8

疎開プロジェクト洞爺バケーション開催

※2013年までに計3回(毎年夏休み)開催し、延べ337人の親子が参加していただきました。

2012/1

緑の防潮堤プロジェクト「希望の森モリ大作戦~東北植林~」発足

(WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL とめ組 JAPAN の共同企画)

※東北で植樹するための苗木を、東北で取れた種からビニールハウスで育苗しています。

2013/4

カンボジア学校建設プロジェクト発足

※ 2016 年までに、13 の建物（幼小中学校 11 校と図書館、孤児院を一棟ずつ）を建設しました。

2014/1

フィリピン支援プロジェクト「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」発足

※ おみやみシンの支援、ボランティアチーム「MY RIDE」の活動支援をしました。

2014/8

カンボジアの子供達が日本に来る「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」を開催

※ 2016 年までに 6 回ツアーを行い、2016 年は Specia イベントを行いました。

2014/8

広島土砂災害復興支援「め組 JAPAN 広島」発足

※ 2014 年 8 月末から 9 月末まで活動し、2,500 人以上のお手伝いクルー（ボランティア）が参加してくださりました。

2014/11

フィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施

フィリピンのバロ市で開催されたフィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施
※ 慰霊祭の会場に 1,000 本以上の竹あかりを飾りました。

2015/9

「1 日だけの日本最幸の塾” 諸君、狂いたまえ ”」を実施

主催イベント「1 日だけの日本最幸の塾” 諸君、狂いたまえ ”」を実施
※ 約 900 名の方に参加いただきました。

2016/4

新理事長に” 川島孝一 ” が就任

理事長交代に伴い、川島孝一が新理事長に就任。
※ 軌保博光（てんつくマン）は顧問に就任。

2016/4

熊本地震災害復興支援「め組 JAPAN 熊本」発足

※ 2016 年 4 月から 2017 年 9 月末まで活動し、2016 年 4,400 人、2017 年 3,737 名のお手伝いクルー（ボランティア）が参加してくださりました。

2016/4

「挑戦プロジェクト」発足

サハラ砂漠・ブラジル ジャングル・チリ アタカマ砂漠・ペルー イカ砂漠、これまでに 5 回のアドベンチャーレースに挑戦しました。
※ 2017 年はペルー イカ砂漠に 19 人で挑戦し、これまでに 42 名が参加しました。

2016/4

「感動共有プロジェクト」発足

※ 2017 年までに 2 回のビーチクリーンアップツアー in 香港を開催。これまでに 32 人に参加をいただき、約 552kg のゴミを拾いました。
※ 2017 年、映画「LIFE TREASURE」上映会を全国で募集し、総観客動員数 2000 名
※ 2017 年、会員様限定「第 2 回 富士登山」を開催、これまでに、28 名が参加しました。
※ 2017 年、HAPPY ワッシュイ 屋久島を開催、10 名が参加しました。

2016/4

カンボジア支援プロジェクト卒業

カンボジア支援プロジェクト卒業。独立し「NPO 法人 GLOBE JUNGLE」発足。

2017/5

映画「LIFE TREASURE」完成 / 公開

自主上映会の募集を開始しました。

2017/7

『メイクザヘブン祭り 2017~ 挑戦のその先に ~』

主催イベント『メイクザヘブン祭り 2017~ 挑戦のその先に ~』を実施
※ 約 80 名の方に参加いただきました。

2017/9

日本縦断（北海道から鹿児島まで）歩いて制覇

活動を多くの方にとって頂く為に、理事長と副理事長を中心に助け合って、2,778K を 53 日間で完歩しました。



植林・間伐プロジェクト

WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL

今世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり、結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは、人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心を一つにして力を合わせる時だと思います。

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱい地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2017年は、『希望の森もり大作戦～東北植林編～』で「森の防潮堤」を作る植林のために広葉樹の育苗と5月には岩沼市の千年希望の丘・石巻市の植樹祭にて、植林ツアーを行いました。また、4月と9月に内モンゴル植林ツアー、ワンフェスの活動を広く知っていただきたいと、2016年の続きで北海道から岐阜県までの22県をこれまでの活動の報告を兼ねて、講演を行いました。

各ツアーを通してたくさんの方に参加頂き、たくさんの人と力を合わせて笑い楽しみながら「緑」と「希望」を増やす事が出来ました。

活動内容

- 一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～
- 中国内モンゴル植林
- 宮城植林
- 東北植林プロジェクト（め組 JAPAN との共同企画）
「希望の森もり大作戦～東北植林編～」
- 間伐プロジェクト



足跡

2005年4月	第1回中国内モンゴル植林ツアー * 2017年までにツアーを計18回開催しました（2017年は4月と9月に開催）。
2008年11月	植林事務局を WONDERSFUL 植林 FESTIVAL と命名し、新たに事務局を設置。 同時に一円募金プロジェクト開始 * 2017年までに一円ヒーローが1007名となりました。
2009年6月	第1回ブラジル植林ツアー開催
2009年8月	第1回南アフリカ植林ツアー開催 * 2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
2010年3月	国内植林ツアー開催 * 2017年までに北海道、和歌山、熊本の3箇所と東北植林の植林ツアーを開催しました。
2010年4月	国内間伐ツアー開催 * 2015年までに、宮城、静岡、奈良、和歌山、熊本、兵庫の6県で計9回の間伐ツアーを開催しました。
2012年1月	東北植林の準備開始 * 9月に『希望の森もり大作戦～東北植林編～』と名付け、スポンサーや育苗の募集を開始しました。 * 2013年からは、宮城県石巻市で活動している『NPO法人いしのまき環境ネット』様『NPO法人この森』様の協力を頂いて育苗を継続中。 * 2015年は、約2年半育てた苗木2500本を、『岩沼市千年希望の丘植樹祭』にて植樹しました。 2017年までに岩沼市と石巻市で4回の植林ツアーを実施しました。
2016年2月	一円マンの全国報告会の旅 * 沖縄県から愛知県までの25県を、天ぷら油の廃油で走る車で周り、10年間の報告と一円マンを増やす旅。2017年は、北海道から岐阜県までの22県を講演しました。

担当者より

どうしたら当たり前前に雨が降る地球を未来の子供達に残せるのだろうか？その答えの一つが植林でした。木を植えると、雲が出来て雨が降ります。

そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年には「WONDERSFUL WORLD 植林 FESTIVAL（以下ワンフェス）」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。

2012年からは東日本大震災の津波で被害のあった福島県から青森県の沿岸部に森の防潮堤を創りたいという想いで、東北で広葉樹の苗木を育て始めました。

2017年は、一円募金活動・ワンフェスのサポーターさん募集した他、一円マンを増やすための全国ツアーを開催。5月に宮城県岩沼市の千年希望の丘植樹祭・9月に石巻市にて植林ツアー行い、4月と9月には中国内モンゴルで植林ツアーを行いました。



かごしマン

植林とは

ワンフェスの想い

ワンフェスでは、世界中のいろんな国の人たちと、笑い楽しみながら世界中を緑だらけして、未来の子供たちの笑顔を創造します。

この地球には、6万を超えるいろんな木の種類がいる。50mを超える木や太い木。咲かせる花の色も違ういろんな形の実を付ける。

そんな木々は、根っこを大地に深く伸ばし地球を一つに全部つながってる。地球と共にひとつなのです。

ワンフェスでは、世界中のいろんな肌の色や違う国の人たちと、木を植えることでココロを一つにして、世界をフェスティバルにしていきたいと想います。だって、人も地球と共にひとつだから。

100年後・数千年後。人も木々と同じように地球と共に生きて、生きることの隣に森がある。

大きな津波がきても森が津波を和らげ、多くの子供たちのいのちを守り、中国では『昔ね、ここは沙漠って呼ばれてたんだ。』って、内モンゴルの人たちが森の中で話してる。

世界中のいろんな国で、子供が走り回る姿を、木陰で大人が眺めてる。

そんなワンダフルワールドを想像します。



植林の意味

ワンフェスでこれまで植えて来た植林は、それぞれ、『なんの為に』が違います。



中国 1 箇所目

流動砂丘（沙漠が草原や街を飲み込む）を止める為に、沙漠にまっすぐに植林をしてグリーンベルトとして森を育て、沙漠化を止めています。

中国 2 箇所目

現地の方の雇用と産業と植林が循環することを目的に植林しています。

ブラジルの植林

違法伐採されてることを知り、微力ですが、原生林の森の修復のための植林をしました。

南アフリカ

貧富の差や差別により食事が十分ではない家に、一家に一本の果樹を住民さんと共に植林を行いました。

一国内一

人工林から少しでも自然林に近づけるための植林や、里山が健全な森になるように間伐をしています。

一東日本震災以降一

将来、来ると予想されてる津波を少しでも和らげるための、森の防潮堤や防潮林のための植林をしています。



沙漠に森が出来るまで

ワンフェスでは、現在毎年4月と9月に、中国内モンゴルの沙漠で植林活動をしています。

なぜ、沙漠で木を植えるのか？どのようにして沙漠が森になっていくのか？

その仕組みを簡単に説明します。

沙漠では、昼と夜の温度差が約40℃。

そんな過酷な環境では、風がうまれます。

暑いところから、寒いところへ吹く風は、大変強く、森、木、草、花、種、砂までも吹き飛ばします。

吹き飛ばされてしまうと、遮るものがなくなるので、さらに風は強くなる。

そんな悪循環を防ぐ手立てが「植林」です。



植林とは、木を植えること。

木を植えると、少し風が弱まる。

根を張り、地中に潜んでいた水分を貯めてくれる。

水分があると、草が生える。木も、もっと育つ。

木が育つと、影が出来る。風も防いでくれる。

影ができると、温度が下がる。

温度が下がると、風が弱まる。

そして、どんどん大きな森になる。

じき、花や、動物たちが帰ってくる。

そんな、大きな循環をうみだすために、木を植えています。



一円募金

一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～



ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して、「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」、「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える！」という「一円玉＝緑」の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになろう！という想いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び募集しました。

【2017年の実績	登録人数：73人（チーム）	募金額：147,324円】
【2017年までの累計	登録人数：1007人（チーム）	募金額：9,430,763円】

※この1円募金は、全て苗木の購入に当てられます。

ワンフェスの活動の啓発

かごしまんセッションツアー

ワンフェスのこれまでの12年間の活動を広く知っていただき、自分ができる小さな一歩で世界中をワンダフルな世の中にする為に動き出す人を一人でも増やそうと、全都道府県を回り活動の報告をさせていただきました。またその周る手段として、天ぷら油の廃油で走る車で移動しました。2・3月で北海道から岐阜県までの22県で活動報告しました。また、個性心理学のチャリティーセッションを実施し、出会った方々のココロにも希望の種をまきました。

【全部で25講演 233人以上 / 151名のセッション / 73名の1円ヒーローが増えた】



京都大作戦 2017

毎年7月に京都府宇治市の京都府立山城総合運動公園（太陽が丘）特設野外ステージにて開催され、一日に3万人が来場する、野外ロック・フェスティバルで、マイフォレスト大作戦として植林活動の啓発を行っています。

2017年は、10周年記念として『京都大作戦 2017 ～心の10電!10執念!10横無尽にはしゃぎな祭!～』と題して7月7日～9日の3日間開催され、植林のチラシ約2千枚を配布して266,643円の募金を預かることができました。



中国植林

2017年4月と9月に、第17回、第18回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。4月のツアーでは、親子の参加で小中学生が3名参加し、若い世代にも大地に木を植える喜びや楽しさを伝える事が出来ました。

9月のツアーでは、数年前までは一面沙漠だった植林地に草原が広がって、昆虫や爬虫類だけでなく野鳥も帰ってきて、鳥の鳴き声や虫の姿をたくさん見る事が出来ました。さらに、うさぎを目撃したり、これまで植えた木々の木陰で休むことができました。

また、ツアーの恒例ともなった、現地の中学生30名と一緒に植林を行う事が出来て、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていける気持ちを共有する事が出来ました。

【第17回：ツアー参加者22名+中国の子供たち94名。ポプラとスナナツメを3920本植林】

【第18回：ツアー参加者18名+中国の子供たち30名。ポプラとスナナツメを740本植林】



東北 / 間伐

宮城植林

2017年5月27日から28日に、東日本大震災後に MAKE THE HEAVEN の活動拠点としてご縁を頂いた宮城県で、2012年から育てている苗木を植樹する植林ツアーを開催しました。植樹祭当日は、岩沼市主催の「第5回岩沼市希望の丘 植樹祭」に団体枠で植樹に参加し、386本の植樹をしました。

また、宮城県の被災した牡鹿半島で宿泊することで当時のことを知ってもらい、翌日は苗木のお世話の体験をしていただきました。1泊2日のツアーで苗木を育てる体験から未来の森の堤防になる植樹祭を体験し、自然と被災地に希望を残す植樹祭ができ、参加者さん同士も深く繋がるツアーとなりました。9月23日には、石巻市で初の植樹祭を開催し277本を提供し、全体で3000本の植樹をしました。

【第3回 希望の森もり植林ツアー 2017 in みやぎ】：参加者 18名
【第4回 希望の森もり植林ツアー 2017 in 石巻】：参加者 14名



東北植林プロジェクト（め組 JAPAN との共同企画）

「希望の森もり大作戦～東北植林編～」



2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。

有害な物を省いた瓦礫を使って丘を築き、深根性・直根性の常緑広葉樹を混植・密植で植林する計画です。森の防潮堤は防潮堤本来の役割を果たすだけでなく、津波が防潮堤を乗り越えた場合でも、津波の速度を和らげて人や家屋・家財の流出を防ぎ、被害を最小限に抑えられる事を知りました。

ワンフェスはこのプロジェクトに賛同し、2012年1月から東北植林の準備を始め、9月には「希望の森もり大作戦～東北植林編～」として活動しています。現在、樹木の種を拾い、常時20,000本の苗木を育てています。

2017年は、21種類・約20,000本の苗木を育てました。活動を継続的に支えてくれる『マンスリーサポーター』では、2017年までに16名の方に応援をいただいております。

2017年は、震災直後から活動させていただいている石巻市に予定している、『南浜復興祈念公園』内に育苗拠点を移動して、防災と震災の伝承を兼ねた公園の緑化に取り組んでおります。



間伐プロジェクト

今、日本の森はほったらかしにされて元気が無くなっている事、それが原因で大雨の時に土砂崩れなどの災害が起きていく事、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。

ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法として、NPO法人「森の蘇り」の『きらめ樹間伐』を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。

間伐ツアーでは、NPO法人「森の蘇り」の指導のもと、日本の森、世界の森の現状と間伐の基礎を学び、実際に森に入って『きらめ樹間伐』を実践しています。きらめ樹間伐は、チェーンソーや重機を使わず、ノコギリだけで楽しく間伐する事が出来るため、子供からおじいさん、おばあさんまで、幅広い年齢の方々に参加して頂き、たくさんの子供達の笑い声が森の中に響きます。また、間伐ツアーは植林ツアー同様、大地と人が繋がりに全国各地の参加者が繋がるきっかけとなり地元に戻ってからの最初一歩に繋がっています。今後も、より多くの人に日本の森・世界の森の現状を知ってもらい、森を守り、人の元気になるプロジェクトを進めていきます。※2017年の間伐ツアーは実施しておりません。

植林ツアー参加者の声

ホテルは最棒！緑化センターには2泊したいなぁと想いましたが、最後の1泊がホテルでよかったとも思うし…

ほんとにたくさんの経験が出来るツアーで、続けてくださるスタッフには感謝しかありません。
4月に植えた樹たちが、葉を茂らせて背を伸ばしている姿。それが幾重にも重なってグリーンベルトになっていく様子。

日本では経験体感できない感動が、目の当たりに出来て…

ただ樹を植えるだけではなく、生命をふやしているっていうのが嬉しくて。宮城の苗木さんのお世話でもそうだけど、きっと私の声や体温を感じてくれるんだろうなぁって想ってたくさんたくさん話しかけました！

次行ったらまたおっきくなってるんだろうなぁ〜(´ω`)って今から楽しみです！

30代 女性(中国植林参加)

何度かマイツリーはさせてもらったこともあり興味はあったけど、行くまでもないかなーと思っていた植林ツアー。

2日目午前の植林後、第6回の植林地を見せてもらいました。
その看板に自分の名前があって大興奮！！植えてもらった木々がとっても大きく育ち森になっているのを見て感動しました。
木を植える時に「元気に育ててね」「強く育ててね」とずっと声をかけながら植林させてもらっていたけど、育った木や戻ってきた緑を見てより深く木や地球に愛と優しさを注ごうと強く思いました。

植えてくれる誰かがいて、育ててくれる誰かがいて、木々が森に砂漠が緑になっていく。循環する生命がある。
自分も自然の一部だからもっと地球や自然と寄り添って共に生きていこうとより一層強く思いました。

30代 女性(中国植林参加)

帰りの感想会で言っていた「自分1人の力をなめるな」がグサッとさざりました。

本当にみんなが自分の持ちうる感性や力をもっと信じていければ、満ちた自分の器でいられれば、無関心も奪い合いも減って、緑豊かな地上で生かされている豊かさを受け取っていけるのになぁと思っています。

みんながそういう存在・そうなれる存在であると信じています。

こんなことを、自分の腹からの言葉として出せる体験ができる植林ツアーは最高！ちょっとでも気になっている人は、もう呼ばれている証拠なので、ぜひ参加して体験して欲しいです。

40代 女性(宮城植林参加)





挑戦プロジェクト

TEAM A ☆ H ☆ O

「 誰かの挑戦が、誰かの勇気につながる 」
「 誰かの挑戦が、誰かの幸せにつながる 」

できるかできないかは、わからない。けれど挑戦してみたい。

私たちの挑戦自体は、きっかけを作るための小さな一歩です。
勇気を持って始め、前向きに挑み続ける姿を発信し続けることで、
誰かが勇気を出し、新たな一歩を踏み出すきっかけになる。そう信じています。

『大切なのは続けること』

ワクワクすることや目標が一人ひとり違うように、立ちちはだかる壁も、それぞれ違います。
それでも失敗しても諦めなければ、夢は実現できます。

自分たちの挑戦が、誰かの喜びや幸せにつながることをイメージし
笑い楽しみながら、チームで挑戦を続けています。

活動内容

- 海外の過酷なアドベンチャーレースにチームで挑戦
- 映画製作



足跡

- | | | |
|-------|-----|---|
| 2013年 | 12月 | Team aho を結成 |
| 2014年 | 4月 | 世界でもっとも過酷なレースの一つ"モロッコサハラマラソン"
(1週間250キロ)に日本人初チームで初出場 |
| 2014年 | 10月 | 世界でもっとも過酷な耐久レース"ブラジル・ジャングルマラソン"
(1週間275キロ)を日本人初チーム(うち1名女性)で出場しチーム部門で優勝 |
| 2015年 | 10月 | 世界でもっとも過酷と言われる"南米チリアタカマ砂漠マラソン"にチーム6名で出場
チーム部門2位、特別賞の「スピリットアワード」を受賞 |
| 2016年 | 4月 | NPO 法人 MAKE THE HEAVEN 理事長に就任に伴い、
名前を Team aho から TEAM A★H★O に変更 |
| | 10月 | 世界でもっとも過酷と言われる"南米チリ・アタカマ砂漠マラソン"に
チーム10名で出場。チーム部門1位優勝 |
| 2017年 | 11月 | ペルー・イカ砂漠マラソン(250キロ)にチーム19名で出場。
9名完走 10名タイムアウト |

担当者より

2017年ペルー・イカ砂漠に過去最高のチームメンバー19名で挑戦することができました。

一緒に挑戦するメンバーは、去年の倍近くになり僕の中で、どうしたら19人の気持ちを共有できるかな？と考えていました。結果から言うと、レースの2日目の最初で19人中10名がタイムアウト。チームとしてのやり方やあり方をもっとこうした方がよかったじゃないかな。こうしたらもっとさらによかったじゃないかな。レース中、歩きながらいろんな思いがよぎりました。

僕は、もっといっぱいの人と喜びを分かち合いたいと思っています。ゴールした人しか味わえないものがあるなら、リタイヤした人しか味わえないものがある。どちらも体験したからこそ見える景色。レースだけでなくすべてにおいて、これからの先の未来がさらにハッピーになると信じて僕は動いてきます。

これからも挑戦をしていくし、一緒に挑戦したい人がいたら共に挑戦したいと思っています。そのためにも、今回の経験を糧に、新しいチーム作りにも挑戦します。



こういちマンモス

映画製作への思い

「一人ひとりが素晴らしくて みんな希望であること」を伝えたくて、今回の映画を製作しました。

たくさんの方々に見ていただきたいです。

この映画を見ていただくことで、「引きこもりの人が家から出るきっかけになったらいいな」「落ち込んでいる人が少しでも笑えたらいいな」「誰かの背中を優しく押せたり、見守ってほしいな」とささやかに願っています。

映画制作 挑戦の理由

今回、映画になったレースは2016年のこと。実は、その一年前の2015年10月に行われたチリ・アタカマ砂漠マラソンにおいても、TEAM A☆H☆Oは250kmに挑戦をしていました。なんとその時の結果は、チームとして2位、さらに特別賞のスピリットアワードまで受賞という、とても大きな功績を残しました。

ただ残念なことに、チームメンバーの石本幸四郎さんがレース中リタイア。生まれつき視野が一般の方の5%しかない幸四郎さんにとって、アタカママラソン完走は大きすぎる挑戦だったのかもしれない。

しかし、僕はこのまま終わらせてしまうことに違和感を感じました。だから、聞きました。

マンモス「幸四郎さん、もう一度挑戦したいですか？」

幸四郎「できるなら挑戦したい」

マンモス「それならもう一度挑戦しましょう！」 この瞬間、2016年での再挑戦が決定しました！

ただ僕としては、すでにチームで2位になり、特別賞もいただいていたこのレース。このままではどうしてもモチベーションが上がりきれない…。その時思いついた答えが《映画制作》でした。

《映画制作》をすることで、きっとそれをきっかけに、

「幸四郎さんの奥さんも巻き込んで、一緒に挑戦できるかも！」「新しいメンバーと巡り合って、一緒に挑戦できるかも！」「その映画を足がかりに、いっぱいのかっかけを作っていけるかも！」

そんなワクワクがたくさん湧いてきました。

もちろん映画制作なんて初めての経験だったので、たくさん不安もあったのですが、それ以上にワクワクで心躍り、そこに向かって一歩を踏み出していきました。

実際に、マラソンの最中、監督のまさお自らが撮影をし、日本に帰ってきてから映画編集に入りました。

ここで、映画製作費用500万円を55日間で集める挑戦をしました。

毎日毎日、たくさんの方のお世話になった方々に電話をして思いを伝えました。電話が繋がらない時は、留守電に入れてもしくはメールをしていました。たくさんの方の応援のおかげで、55日間で580万円も集まりました。

みなさんのおかげで、そしてみなさんと共に映画を作ることができ、本当に嬉しいです。ありがとうございます。

総指揮 こういちマンモス



関係者コメント



監督 小林 雅央

映画「LIFE TREASURE」の制作は本当に感謝と感動に溢れていました。

砂漠を走るメンバーも全員ど素人なら、映画を制作するメンバーも完全にど素人。僕も5分以上の動画制作は全くの未経験、カメラの詳しい使い方もわからないまま砂漠に立っていました。

リーダーこういちマンモスの呼びかけにワクワクしながら小さな一歩踏み出したことから、この挑戦がはじまりました。何もわからずに始まったチャレンジは、資金もノウハウも経験も、本当に足りないものだらけでした。

でも、この挑戦が必ず誰かの勇気や幸せにつながっていることを信じて一歩ずつ進んでいくうちに、たくさんの人たちが応援してくれて、知恵や力を貸してくれて、映画はどんどん成長していきました。

みんながいつも背中を押してくれたから、250kmの砂漠の道のりを大会最重量の20kg以上の荷物を背負いながら撮影し続けることができたし、初上映までの一週間はほぼ寝ずに作業し続け、上映開始15分前には無事完成させることができました。

素敵な人達とのつながりの中で、自分の限界は、限界ではなくなっていきました。

そして上映された映画は日本全国、さらには海外まで拡がり、たくさんの感動の声や「この映画を見て新たな一歩を踏み出しました」というような声もたくさんいただいています。

ワクワクして踏み出した小さな一歩は、挑戦し続けることでたくさんの人たちの愛に支えられ、素敵な映画が生まれました。

「できるかできないかじゃなく 笑い楽しみながら一歩踏み出す」

「誰かの挑戦が誰かの勇気につながる」「誰かの挑戦が誰かの幸せにつながる」

この挑戦をとおしてたくさんの方の人生の宝物が見つかりました。本当にありがとうございます。そしてこれからも挑戦し続けていきます！

— 小泉 雅央 —

今回、映画の構成、編集をさせて頂いた入江富美子（映画監督～1/4の奇跡～他）です。きっかけは、初上映会の一週間前に、「アドバイスを」と言うことで映画を見て頂いたことでした。

その時、まだ描きたい映画に届いていない！良くしたい！と言う思いが監督の雅央くんとこうちゃんから伝わってきました。しかし、正直「今からではみんなの思い描いている映画にする時間は、もう無い！あ～もう少し早かったら」と悔しい気持ちになりました。しかし、次の瞬間に、「ここで帰る選択はありえない。いけるとこまで全力で応援するぞ！」と、私のアホスイッチがオン。

その日から自分でまさかの4日間泊まり込みの編集が始まりました。監督の雅央くんの思いが映画に乗ることを大切にしながら編集し続けました。それにしても、初上映会に向けての映画完成までの時間の無さよ！「寝ないでぶっ飛ばすぞー！」と自分でも驚く力を引き出してくれたのは、監督やみんなの仲間を思いやる想いでした。

徹夜の編集は、まるでアタカマ砂漠をみんなで一緒に走ったような過酷！？（笑）で本当に楽しい体験で、こんな素敵なチームの一員になれたことが、私の人生の大きなご褒美になりました。

みんなの想いのつまった「LIFE TREASURE」を沢山の方にご覧頂けることを心からお祈りしています。ありがとうございます。

— 入江富美子 —

（へそ道主宰。映画監督。NY国連における平和フィルムフェスティバル映像審査員のアジア代表。映画「1/4の奇跡～本当のことだから～」。「光彩～ひかり～の奇跡」。「天から見れば」を制作）



編集/アドバイザー
入江富美子



主題歌 染谷西郷

涙！！情熱！友情！そして感動のラスト！何回泣かせるんだこの映画は！！
けて悲しみの涙じゃなく、ひたすら心揺さぶられ続けとめどなく流れる心の汗！！
本気笑顔ってこんなにも熱いんだ！！
一生の宝物と出会った。そんな45分間で！！
さぁハンカチを握りしめ感動と情熱に魂を震るわせろ！！

— FUNKIST 染谷西郷 —

ペルー・イカ砂漠マラソン



砂丘、砂利道、もろい岩石などのコースを駆け抜けます。各ステージとも約 10km 間隔でチェックポイントが設けられ選手は休息を取るだけでなく、水の補給や治療を受けられます。ロングステージの呼び名をもつステージ 4 は 2 日間にわたり、ほかのステージの倍近い距離を昼夜を問わずに走ります。

ペルー・ワカチナを舞台に 7 日間にわたり大会が展開され選手は食料や衣類、寝袋など 10kg 超の装備を背中に担いで、約 250km を走り抜きます。最高気温 40 度、最低気温 10 度という過酷な寒暖差と灼熱の砂漠でランナー同士がお互いを助けあいながらゴールを目指すレースです。

日程:2017 年 11 月 28 日～12 月 3 日

主催:Marathon Des Sables

ステージ 1 37.2km

ステージ 2 42.2km

ステージ 3 32.7km

ステージ 4 68.4km (ロングステージ)

ステージ 5 42.2km

ステージ 6 19.6km

「嬉しさと悔しさ」

TEAM A ☆H ☆O として 5 回目となる挑戦。チーム人数過去最多 19 名での挑戦は大きなものを一人ひとりが得ました。

レース初日にミッキーが足を痛め、らんぼうがミッキーを引っ張り、ミッキーや仲間の荷物をみんなで分けて、みんなで助け合ってなんとか全員が 1 日目をゴールすることができました。

初めて過酷なアドベンチャーレースを体験したメンバーにとっては、初日はとても大きく、さらに現地の水が合わなくて、下痢を起したり膀胱炎の様な症状のメンバーが何人もいました。

2 日目の最初に大きな山を越える際にチームとして大きな決断がありました。最初のチェックポイントで、10 名がタイムオーバーとなりリタイアになりました。僕は、最初一番後ろから様子を見ながら、誰かはリタイアすると、思っていたのが現実になった瞬間でした。



今まで一緒に挑戦したメンバーがごしまん、まさお、らんぼうがサポート側でみんなを支えてもらっていてまだ体力があったのに、一緒に進められなかったのは痛かった。そして、けんちゃんゆりかちゃん、ミッキー、さとこちゃん、ゆっぴー、パープル、みつひろさんがこの時点でタイムオーバーになるのも正直しかった。

チームとしてのやり方やあり方をもっとこうしたらよかったんじゃないかな。こうしたらもっとさらによかったんじゃないかな歩きながらいろんな思いがよぎりました。

僕は、ぎりぎりタイムオーバーにならず、40 分近く次のチェックポイントまで通過する時間が少なかったのですが、みんなの思いと一緒にいくと決めて走ってなんとか間に合い、その日はゴールすることができました。僕は、人生で初めての血尿ができました。

そんな時、一緒にのこったメンバーの元薬剤師ちゃき、看護婦のあやちゃんからアドバイスをもらい、塩をいっぱい取ることで回復をしていきました。のこったメンバー 9 人もとても素晴らしくて、ラオウも足を痛めながらも諦めずに一歩踏み出していく姿がとても素敵でした。鍼灸師のつよぼんは、みんなの体をケアしてくれて本当に大きな存在でした。3 回目の挑戦の幸四郎さんは、まったく不安もなく、むしろ安定した歩きを見せてくれてとても心強かった。

いけちゃんはみんなのサポートをしてくれて、魚さんはキャンプ経験が豊富で焚き火やテント張りなどサポートしてくれて、人それぞれ、役割があって、その役割と一人ひとりの「 出番 」があると思いました。まさも、いつも後ろでラオウをサポートしてくれてラオウも安心していました。僕は、全体を見ながら一番前で歩きコースを見つけていきました。

この時、あの人がいいたから助かったあの時、あの人がいいたから支えになった常に寄り添い、時に離れて一人なって自分との対話、チームとの対話、一人ひとりが挑戦する思いが違うように、ここまでの道のりも違う役割が違うように出番（ベストなタイミング）があると思います。ゴールできたことは嬉しいです。

でも、全員でゴールできなかったことは悔しいです。タイムオーバーになったメンバー10人がいたからのこった9人はみんなの思いをもって頑張ろうとさらにチカラが入りました。「 嬉しさで悔しさ 」偶然かもしれないけどほぼ半分の9名完走10名リタイヤ。TEAM A ☆ H ☆ O にとって挑戦するたびに結果を出し続け今年は映画もでき映画では、本当に美しい部分が多く映っている。

映画以上に現実には、体は痛くまったく知らない土地で慣れていない水やレース用の食べ物を摂るとも環境の違いも大きな不安要素になることから一人ひとりが何を感じ、何を学び、何を心得、次に挑戦していくか凹んでいる時間はまったくなくてむしろ、結果や挑戦以上に僕は「 続けていく 」ことの大切さをとても大きく感じます。

そしてTEAM A ☆ H ☆ O として大きな変化を頂きました。いままでのやり方（チーム作り）では限界が来ていることをそれを今回19人で体感することができ本当に嬉しかったです。もっとといった感動を共有したい、もっとみんなと一緒に生きていきたい希望や幸せのきっかけをさらに増やしていけるようにもっといろんなことに挑戦していきたいと思いました。

こういちマンモス



マラソン参加者の声



あやちゃん

私がこのレースに参加した動機は①チームでの達成感を再認識し、みんなで味わう②志向性の転換により苦しみも楽しみに変わる実体験をするということであった。過酷なレースで環境的に予測できる疼痛や風邪、下痢などの症状には薬で対応できるが、メンタル面で如何に克服できるかということが課題で、限られた中で出来ることは笑いや気分転換、食事やアロマ、音楽などであった。結果として①②は達成でき、一番はいつでも笑っていられるということではないかとつくづく感じる事が出来た。「HAPPYな門には福来る」かな

ワクワクした事はできる「ほら、できたじゃん！」と自分に証明したくて挑戦しました。けれど、私のイカ砂漠挑戦の結果はそうではありませんでした。ワクワクしたことは「絶対にやった方がいい」私が自分に証明できたのは、そこには自分が必要な大切な経験が待っているということです。それは想像をはるかに超えた現実です。最後に、応援して下さったみなさん、心から本当にありがとうございました！

ミッキー



ラオウ

1%のワクワクを信じて挑戦したこのマラソン。実際は想像の700倍も辛く、キツく、痛い…自分の一生でもうこれ程の試練はないと思える程のものでした。だけど、完走して完走メダルを買った時にもう一回やってもいいな、と思いました。なぜなら、人生を楽に生きたいんじゃない、楽しく生きたいんだ！という事に気付いたからです。今までの全てにありがとうございます。そして、愛してる。HAPPY〜♪





ゆっぴー

イカ砂漠マラソンに挑戦するきっかけは、リュックを背負って砂漠に立つ自分が思い浮かびワクワクしたからだった。完走すると信じて疑わなかった。結果は2日目タイムオーバーでリタイア。予想外の展開に愕然とし、事実を受け入れられなかった。この頑なな私の心を溶かしてくれたのは、仲間の“愛”だった。みんな極限状態の中、お互いを気遣い、思いやり、そこに“愛”があった。完走出来なかったコトは悔しいけど、仲間の“愛”を感じられたコトは私にとって人生の宝物となった

つよぼん



厳しく過酷なレースを終えて今思うことは、『楽しかったな〜、寂しいな〜』です(笑)やっぱり、そうなんです！あんなにレース中はしんどかったのに！あんなにゴールに執着して毎日ドキドキしてたのに！仲間とテープ貼りたーい、水膨れ処理したーい(笑)毎日、皆様からの見えぬ力に助けられ一歩、また一歩と進むことができました。僕は思いました！挑戦を決め、尊敬する仲間と出会い、全てに感謝し、自分の弱さと強さを知る。こんな機会を与えてくれて、最高じゃないですかー『砂漠マラソン』、最高じゃないですかー『TEAM A ☆ H ☆ O』すでに、リーダーを始め複数回挑戦している変態(勇者)のように中毒になりつつあります(笑)本当に、皆様ありがとうございました。



いけちゃん

今回のレース、本当に楽しかったです。歩く食べる寝るのシンプルな毎日がとてもとても充実でした。《生きている》をREALに感じました。 昨年のアタカマはガチガチの自分を緩めるまでが精一杯だったと今感じています。今回自分を素直に解放できた状態でのレースは、起こること全てを愛おしみ、感謝し、荘厳な大自然のエネルギー、人のパワー、生きている喜びを思う存分味わって参りました。 チームメンバー、サポートスタッフ、そして応援して下さいました全ての皆様のお陰です。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

ちやく



ベルーイカ砂漠マラソンに参加させていただきありがとうございました。参加を決めるまでに金銭的体力的な壁があり、乗り越えてからも自分との向き合いの期間が長く続きました。弱く何もできない自分を認めたつもりでしたがレース中や後にも更にものし掛かり、また自分を省みる良いきっかけとなりました。自分の良き所改善したい所をこれからの生活で伸ばしていこうと思います。たくさんのお力添えをありがとうございました。



さとこちゃん

今回のレースは、自分と向き合う為だったようです。周りからしっかりしてと言われて、それに合わせてずっと頑張ってきた。でも今回は本来の自分の弱さ、もろさ、情けなさをハッキリと見せつけられました。見て見ぬ振りして来たけれど、やっぱりそこは避けては通れない道だった。根気強くサポートをしてくれたメンバーや、頑張ってるメンバーの姿に励まされ続けました。次は、私が誰かの支えになれる人でありたい。このTEAMメンバーと共に過ごせた事を誇りに思い、心から感謝しています。

パープル



応援いただきありがとうございます！私のイカ砂漠マラソンはタイムアウトという悔しい結果に終わりました。あのときああしてれば、もっとこうしてれば、と反省点は多くあります。我々ラッキータウンの目標は、みんなと笑顔で人生を歩むこと。挑戦は誰かに勇気を与えられる。挑戦が誰かの背中を押す。失敗しても笑いに変わって、人生を楽しむために挑戦し続けます。応援してくれる方がいるから挑戦できます。本当にありがとうございました！！ ブログIttabi.com Facebook『ラッキータウン』



石本幸四郎

3年連続3回目となる今回の挑戦は、この6年間、自分と向き合い続けて取り戻してきた「本当の自分」がどんな姿を見せるのかを確認するような時間でした。レースが始まると完走へ淡々とベストを尽くし、毎日が清々しい。そして、過酷なレースの中で何度も湧き上がる苦しみすら楽しんで自分がそこに、本当にうれしかったです。応援支えてくれたみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

まさお

思い描いたような結果は得られませんでした。仲間と助け合いながら、たくさんの限界を超えていくことができました。国境を超えて、笑顔で繋がりが合う、素晴らしいフィナーレを迎えることができました。一歩踏み出して、挑戦したこと、たくさんの大切なことに気づけたし、たくさんの大切なつながりが生まれていきました。たくさんの人生の宝物が見つかりましたありがとうございました。





まさ

僕にとっては、今回で3回目の砂漠マラソンでした。1回目は個人でサハラマラソン、2回目と今回はTEAM A ☆ H ☆ Oのメンバーとして参加しました。今回はチームが19人いる中で、どんな役割ができるかすごく考える良い機会になりました。壮大な砂丘、広大な海を景色に走ることは、本当に気持ちよく、最後まで仲間と完走する気持ち固結してゴールできたことが嬉しかったです。

みつひろさん

クラウドファンディングから始まって、家族でペルーに渡り、過酷レースへの参加、すべて人生初で、あまりにも情報量が多すぎて、レースが終えて帰国して数日たった今も、正直、まとまった感想を書くことができません。ただ、この多すぎる情報量の中から得た気付きは、これからの僕の人生、これからの僕の家族の人生に大きな喜びをもたらすものであることは間違いないです。これからの人生にペルーでの体験を活かしていきます。



ゆりかちゃん

大切なパートナー けんと19人の仲間達と一緒に挑戦できて本当に良かったです。熱中症になり意識もうろうの中、けんが諦めずずっと前向きな言葉と笑顔で手を引いて歩いてくれました。19人というチームの仲間達が支えてくれました。たくさんの方の応援と家族の存在、みんなが私を2日目まで連れてってくれました。たくさん泣いて笑って向き合っておりのままの自分に会えました。けんと一緒に挑戦してくれて、本当にありがとう。関わってくれた全ての人に心からありがとう。



けんちゃん

たくさんの方の応援の元、パートナー友里佳と一緒に挑戦でき幸いっばいです。結果から言えば、失敗です。「悔しい」「友里佳をゴールまで連れて行ってあげたかった」という想いが大半でしたが、レース直後仲間と本音で想いを語り合いシェアリングをすることによって、この結果でよかったと思えるようになりました。また、2人の挑戦としては、最後まで寄り添って一緒に歩む事が出来たので悔いはありません。この経験を生かし今後の音楽や講演を通じ「挑戦することの素晴らしさ」を伝えて行きたいと思えます。



こういちマンモス

今回も素晴らしい体験をすることができました。応援して頂いたみなさん、チームのみんな、本当にありがとうございました。完走9名・リタイア10名となって、嬉しさと悔しさを両方共有することができました。ここで得た経験を一人ひとりが次に活かしていくことがまた新しい出会いや喜びが増え、人生の宝物一つ増えていきます。これからもできるできないではなく、笑い楽しみながら一歩踏み出す大切を伝えていきます。ありがとうございました。



魚さん

地平線のどこまでも続く砂漠、照りつける太陽、空、風、砂、足跡…世界の全てが愛おしく思えるくらい魂が震える7日間を過ごさせてくださいました。「足の痛み」や「喉の渇き」辛いことのすべてが、今を生きている証。だと思つと、なぜか自分にはとても嬉しく感じられ、それが僕にとっての『REAL』でした。焚き火を囲んでお湯を沸かしたこと おやつを分けてもらったこと すべて大切な思い出です。チームのみんな、ありがとう。



らんぼう

前回のアタカマ挑戦ではチーム全員が完走してチーム優勝という絵に書いたような結果となった。けれど今回、その中だけではみえなかった悔しさを味わった。挑戦した先には必ずしも望んだ結果が待っているとは限らない。ただ、今回はそれ以上のものを手に入れることができたようにおもふ。仲間たちと魂からの共有ができ、素晴らしい出逢いに恵まれた。これからどうなってゆくのか更に楽しみ。支えてくださった全ての方々へ感謝したい。



かごしまん

過酷なレース2回目の挑戦。目標は、最後尾でサポートし尽くすこと！結果はレース自体は2日目でタイムアウトでした。悔しいけどやりきりました。僕の挑戦は半分は達成。半分の19人でゴールは叶いませんでした。だけどタイムアウトしたことは、大きなギフトになりました。その10人のメンバーでのシェアが、僕にとって濃かった。残った9名のゴールを祈った時間もペルーの国を巡った時間もゴールで世界中の人たちとメンバーのゴールを祝福した時間も最偉の宝物になりました。応援ありがとうございました。





感動共有プロジェクト

アミーゴ大作戦

「地球のみんなと happy !!」をキーワードに、人と人、人と自然、人と動物、全てのつながりを大切にして、みんなが友達（アミーゴ）になって一人では難しいと思うことも、みんなで助け合い、支え合って、みんなで喜び合いながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

MAKE THE HEAVEN の団体立ち上げのきっかけは、2003年12月に起きたイランの大地震の時に、全理事長を含む仲間10名で支援に行ったことでした。それ以降、カンボジア支援、フィリピン台風支援などの海外支援を実施し、最初は「支援」という気持ちで関わる中で、学ぶこと、喜びを共有する事で支援というカタチを超えてきました。

これからさらに、つながりを大切にして、もっと世界中の人たちと友達になりたい！ みんなとさらに喜び合っていきたい！という想いからこのプロジェクトが誕生しました。

素敵な活動しているたくさんの仲間と手を繋いで、それぞれの役割を果たしながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

* 2017年から、カンボジア部門は独立して、NPO法人グローブジャングルとしてカンボジア支援を継続します。

活動内容

- 映画上映
- ビーチクリーンアップ プロジェクト
- 会員限定企画 伊勢神宮参拝 / 富士登山
- 日本縦断

足跡

- 2014年 1月 フィリピンレイテ島巨大台風災害支援開始 * 2015年まで計5回のスタディーツアー開催
- 2014年 11月 フィリピン台風被災一周忌慰霊祭竹あかり装飾支援
- 2015年 6月 フィリピン MY RIDE に土地の購入、コミュニティスペース建設支援、ペディキャブ支援実施
- 2016年 12月 第1回 ビーチクリーンアッププロジェクト in 香港 (NGO OPEN EARTH と共同主催)
- 2017年 5月 ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』上映ツアー
* 11会場 来場者数のべ1000人以上
- 6月 第2回 ビーチクリーンアッププロジェクト in 香港 開催
- 7月 ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』貸し出し開始
- 7月 第2回 メイク会員限定富士登山
- 9月 日本縦断ツアー 53日間

上映ツアー & 日本縦断地図



日本縦断ツアー

2016年4月、メイクザヘブンの理事長をてんつくマンから、こういちマンモスに引き継ぎました。新しくなったメイクザヘブンとその活動（特に映画『LIFE TREASURE』）を、さらに多くの方に知っていただくため、新理事長こういちマンモス、副理事長かごしマン/Masatoが、北海道から鹿児島まで徒歩にて日本縦断を行いました。

9月26日からスタートし、フェイスブックでの日々の投稿や、動画配信などをして行く中で、一緒に歩きたい人や車で伴走してサポートしてくださる方が現れ、たくさんの方達と交流をさせていただきました。ペースとしては、毎日約50kmを目標に、53日間で2779kmを達成しました。



日本縦断全日程

9月	札幌駅 (北海道)	10月	杉田駅	11月	三ノ宮駅 (兵庫)
26	↓	14	↓	1	↓
	千歳駅		白河	2	↓
27	↓	15	↓		御着駅
	白老駅		西那須野駅 (栃木)	3	↓
28	↓	16	↓		備前福河駅
	長和駅		石橋駅	4	↓
29	↓	17	↓		備前西市駅 (岡山)
	静狩駅		春日部駅 (埼玉)	5	↓
30	↓	18	↓		大門駅 (広島)
10月	山越駅	19	東京駅 (東京)	6	↓
1	↓		茅ヶ崎駅 (神奈川)		本郷駅
2	↓	20	↓	7	↓
	仁山駅		三島駅 (静岡)		瀬野駅
3	↓	21	↓		宮島口駅
	筒井駅 (青森)		興津駅	8	↓
4	↓	22	↓		櫛ヶ浜駅 (山口)
	十和田市		静岡駅	9	↓
5	↓	23	↓		四辻駅
	角ノ浜駅 (岩手)		掛川駅	10	↓
6	↓	24	↓		小月駅
	掘内駅		新所原駅	11	↓
7	↓	25	↓		海老津駅 (福岡)
	宮古駅		矢作橋駅 (愛知)	12	↓
8	↓	26	↓		博多駅
	釜石駅		名古屋駅	13	↓
9	↓	27	↓		西牟田駅
	陸前高田駅		河曲駅 (三重)	14	↓
10	↓	28	↓		植木駅 (熊本)
	清水浜駅 (宮城)		水口石橋駅 (滋賀)	15	↓
11	↓	29	↓		新八代駅 (鹿児島)
	矢本		草津駅	16	↓
12	↓	30	↓		水俣駅
	南仙台駅		摂津富田駅 (大阪)	17	↓
13	↓	31	↓		鹿児島中央駅

合計 53日間 2779キロ

日本を毎日50km歩いて感じたことは、洗濯、お風呂、ごはん、携帯電話の充電、電気そのもの、お家など、日常当たり前にあるものが、どれほどありがたく、また大切なかを感じました。

洗濯させて頂いたり、お風呂に入らせて頂いたり、あったかいご飯を頂いたり、差し入れを頂いたり、お家に泊まらせて頂いたり、たくさんの方が応援して頂いたおかげで、無事日本縦断をさせて頂くことができました。

本当に感謝の気持ちでいっぱいです。人の優しさ、あたたかさをいっぱい体感した日本縦断でした。

これからもさらにワクワクすることに挑戦し、皆さんと感動を共有できて行ければ嬉しいです。

そして活動の中で、今回の目的の一つでもあった映画『LIFE TREASURE』をたくさんの方に見て頂いて、さらに感動を増やすことができればと思っています。

こういちマンモス

ドキュメンタリー映画上映ツアー



ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』の全国上映ツアーを行いました。

5月 大阪 / 滋賀 / 北海道 / 宮城 / 新潟
6月 愛知 / 沖縄 / 群馬 / 富山 / 東京 / 広島

また、小学校、中学校、組合、上場企業、一般でも上映しました。



南米チリ・アタカマ砂漠マラソン。標高3200m。気温40度。荷物を背負い250km走る。

「世界で最も過酷と言われるレース」

参加費や渡航費、装備代など1人約100万円の費用がかかる。

参加するメンバーは、全員ど素人。チーム名は、「TEAM A ☆ H ☆ O」

「生まれつき目に障害をもつメンバー、直前に事故で怪我をしたメンバー、小さい子供達がいる母親、経営者など。。」

「そこまでして、なんのために走るのか？」

自分との絆を取り戻すために、やりたいことを我慢し続けてきた人生を変えるために、難病に挑む家族に大切なメッセージを伝えるために、本当の気持ちから逃げてきた自分自身と向き合うために。。

それぞれのゆずれない想いを胸に、過酷な挑戦に挑んだドキュメンタリー映画

=====

製作総指揮 こういちマンモス

監督 / 撮影 小泉雅央

2017年5月3日初上映

作品上映時間70分

=====



参拝 / 富士山登山 / ビーチクリーン

ビーチクリーンアッププロジェクト

地球上の海に漂っているプラスチックのゴミの総量は、2億トンとも言われ、このまま何もしなければ、2050年にはゴミの量が魚の量を越えると予想されています。

そして海が汚れると、それを浄化する微生物の働きが活発になり海水温が上がり、台風の巨大化など、異常気象に繋がるとも言われています。また、海に漂うゴミを生き物が食べて、大量に命をなくしています。

わたしたちは、ビーチクリーンアップを通して「動けばキセキは始まっていくよ!」ということを伝えて「希望」を広げていきます。また、世界中の人たちと笑い楽しみながら地球をハッピーにする仲間を増やすことを目的に、ビーチクリーンアップのツアーを開催します。

2017年は香港で現地の団体『The First Penguins』の協力のもとクリーンアップを開催。総勢20名で船をチャーターし海からでしか入れないビーチのクリーンアップを行いました。



会員限定イベント

2月3日、立春に理事やメイクザヘブンの会員さまに呼びかけて、伊勢神宮での特別参拝を行いました。

また、7月15日には第2回富士登山を開催し、総勢18名で14日に昼に集合して登山を開始し参加者同士で励ましあいながら登り、15日のご来光を拝みました。





災害復興支援プロジェクト

め組 JAPAN

2011年3月11日の東日本大震災を受け、全国から過去に3度結成された緊急災害復興支援チーム「め組」の再結成を望む声を頂き、東日本大震災復興支援チーム「め組 JAPAN」を発足しました。当プロジェクトは、世界中で災害が起こり生きる気力が小さくなっている人に、「一人じゃないです！みんながついてます！」というメッセージを届けながら、希望の種を一人一人の心の中に植えて行きます。

め組 JAPAN の活動で大切にしている事は「つながり」です。東北では2013年から、め組 JAPAN の活動からワンフェスへと引き継ぎ『希望の森モリ大作戦～東北植林編～』に絞って活動を継続しています。また、2016年4月14日余震、4月16日日本震で熊本地震が防災。

地元の災害復興支援団体である、『一般社団法人 チーム熊本』の声を受けサポートする形で支援を開始し、2017年も連携しながら独自の支援を続け、10月からは当時のリーダーが独立して寄り添い活動を中心に活動を継続中。

活動内容

●緊急支援 及び 復興支援活動

足跡

2011年3月14日	め組 JAPAN 発足
2011年3月16日	め組 JAPAN 先発隊が宮城県石巻市に到着し物資配給や炊き出し、泥出し、クルー（ボランティア）の受け入れなどの支援活動を順次開始
2011年3月20日	石巻災害復興支援協議会（旧：石巻支援連絡会）に加入
2011年5月	希望の種まきイベント「SEED'S OF HOPE」を開催
2011年6月	子供達への支援や仮設住宅の訪問など、寄り添い活動開始
2011年7月	被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催
2012年3月11日	追悼式典「祈りの灯り希望の灯り」、尾崎の慰霊祭の運営サポート
2012年4月	南浜ひまわりプロジェクト開始
2012年10月	おだってぱりいで、開業届提出
2012年12月	全国、世界各地から届いた795枚のクリスマスカードを仮設住宅、在宅の方々へお届け
2013年2月	め組 JAPAN の仲間達が子供支援団体「NPO 法人こども∞（無限）感ばにー」を発足
2013年4月	活動の中心を寄り添い支援と、WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL との共同企画「希望の森もり大作戦～東北植林編～」に移行（詳細は15ページを参照）
2013年6～9月	西日本を中心にめ組 JAPAN が行ってきた復興支援の報告会ツアーを開催
2014年8月22日	め組 JAPAN 広島・広島たすけ隊発足
2014年8月23日	ボランティアの募集・支援金の受付開始
2014年8月25日	長期滞在ボランティアの受け入れ開始
2014年8月30日	石巻よりめ組 JAPAN スタッフが広島入り
9月末まで	上記活動を継続、広島たすけ隊へ引き継ぎ完了
2016年4月22日	め組 JAPAN 熊本 発足 一般社団法人チーム熊本のサポート開始
2016年4月23日	ボランティアの受け入れ開始
2016年4月24日	若葉小学校（避難所）のサポート開始（～8月26日）
2016年4月28日	夢まくらプロジェクト開始 くまモンリュックに元気になるグッズ詰め込んで、子供たちに配布したり、次の災害に備えて200名分の食料が賅える「炊き出しセット」10台支援しました。
2016年6月2日	引っ越し支援開始（～10月16日）
2016年6月4日	くまモンカフェ 開始（避難所・～8月）
2016年7月28日	くまモンカフェ 開始（仮設住宅）
2017年2月1日	くまモンカフェに活動を絞り活動を継続
2017年9月30日	熊本の支援を現地リーダーが独立することで活動を引き継ぎ完了

関連団体

●め組 JAPAN から独立した仲間たちの活動

め組 JAPAN 宮城で長期に渡り活動してくれた仲間たち3名で2013年に子供支援の団体「こども∞（無限）感ばにー」を立ち上げ、今も継続して宮城県石巻市で子供の居場所・遊び場づくりの活動を続けています。
NPO 法人 こども∞（無限）感ばにー：<http://codopany.org/>

め組 JAPAN 熊本で活動していた【応急仮設団地でのコミュニティ支援・くまモン cafe】のメンバーが立ち上げた NGO フレンドシップ。新たにお母さんと子どもの支援団体として NGO inon を設立し、2018年春に一般社団法人化へ向けて準備中。URL：<http://inon-ii.info/>

活動内容

2017年の活動

1月	どんど焼き自治会イベント支援	場所：飯野小仮設団地
3月	炊き出し自治会イベント支援	場所：小池島田仮設団地
4月	バーベキュー自治会イベント支援	場所：馬水東道仮設団地
5月	お菓子作りイベント	場所：馬水東道仮設団地
6月	押し花絵	場所：津森仮設団地・馬水東道仮設団地
7月16日	たけあかりワークショップ	場所：櫛島仮設団地
7月30日～8月2日	宮城子ども支援団体研修	研修先：宮城県内子ども支援6団体
8月21、22日	子どもお泊まり会	場所：馬水東道仮設団地
9月10日	出張くまモンcafe	つながる広場・みなし仮設対象イベント参加 場所：広安西小学校
9月13、14日	夏祭り&たけあかり点灯式	場所：櫛島仮設団地

- くまモンcafe：避難所9会場・開催合計47回。仮設集会所11会場・開催合計322回。
- くまモンcafe：利用者実人数1,761人・延べ人数3,737人
- くまモンcafeでの通常レクリエーション：
折り紙・編み物・カラオケ・大人のぬりえ・ネイル・マッサージ・クラフトバックづくり・お菓子作りなど
(期間：2016.6～2017.9末現在)



避難所・仮設住宅のコミュニティ形成のお手伝い (くまモンカフェ)

避難所でのお茶会から始まり、仮設団地の集会所が使用出来るタイミングで、くまモン cafe の開催場所を移行して開催して来ました。

仮設団地集会所で開催するお茶会『くまモン café』は、4 畳半数部屋で生活する高齢者や日中自宅で過ごされる方の生き抜きの居場所として、多くの笑顔が生まれ喜んで頂きました。

隔週もしくは毎週同じ仮設団地に出向く事で『近くにいる遠い親戚みたい』と言って頂き、『気負いをしなくて参加できるのが嬉しい』と喜びの声をたくさん頂きました。

お茶会の開催曜日や時間・祝日開催を自治会や住民の方の声を聞き工夫し、他団体や自治会主催のコラボ企画等のご縁が繋がった事で当初の目標 8 仮設を越え 10 仮設団地でのご縁が実りました。

活動を継続する中で半年毎に環境の変化を感じ、その時期毎でコミュニティ支援の必要性が変わる事も知りました。

避難所から、仮設団地へ。(震災後～半年)

コミュニティ形成の試行錯誤と震災一年。(半年～一年)

自宅解体が進み、更地が広がる時期 (一年～一年半)

仮設団地からの転居が始まり、進まない復興公営住宅への不安。(一年半～)

このような被災地の変化から長期に渡る復興支援が必要だと感じ、10月以降は現地スタッフが独立して任意団体『フレンドシップ』として、活動を継続しています。



全国のみなさまへ

全国からのボランティアさん。物資・支援金・たくさんの想いを届けて下さった皆さん。ありがとうございました。

この活動が継続出来たのも、全国からのボランティアさんや、たくさんの物資・想いを頂いたおかげです。

今では、熊本地震の話が聞かなくなると、全国から来て下さったボランティア仲間から聞いています。

また宮城県や兵庫県にも、被災地研修へ行かせて頂き、子どもやお母さんの支援が必要だと感じています。

町の復興が進み状況の変化を被災者と共に過ごす中で、心の復興は5年・10年と掛けて必要だと知りました。

団体名は変わりましたが、熊本被災地に笑顔の花が咲く様にコミュニティ・お母さんと子どもの支援活動を続けて参りますので、これからも温かいご支援をよろしくお願い致します。

め組ジャパンで学んだ、笑顔の種まきと笑顔のつながりづくりを、これからも続けて行きます。

現場リーダー 廣畑輝臣

ツアーイベント活動報告

MAKE THE HEAVEN では、繋がりを大切にしながら、お互いを応援しあい、助け合い「いつの間にか誰かの力になっていた」そんな希望の物語を創り続けるために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を創っています。

2017年も、感動を共有し、新たな一歩を踏み出せるきっかけの場を創ることができました。

2017年のツアー・イベント活動実績

1月	「植林の思いを伝える全国ツアー」開始
2月3日	伊勢参拝 参加人数：13人
4月	「第17回中国内モンゴル植林ツアー」参加人数：116人
5月3日	ドキュメンタリー映画「LIFE TREASURE」完成 上映ツアースタート（大阪、滋賀、北海道、宮城、新潟、愛知、沖縄、群馬、富山、東京、広島）
6月27～28日	「第3回 希望の森もり植林ツアー」参加人数：21人
29～7月2日	「第2回ビーチクリーンアップ・ワールドツアー in 香港」参加人数：20人
7月7～8日	京都大作戦 植林ブース出店
8日	「MAKE THE HEAVEN 祭」参加人数：73人
15日	MAKE THE HEAVEN 会員 富士登山 参加人数：18人
9月7～10日	「Happy わっしょい屋久島ツアー」参加人数：13人
14～19日	「第18回中国内モンゴル植林ツアー」参加人数：48人
22～23日	「第1回植樹祭 in 宮城県石巻」参加人数：13人
26～11月17日	「日本縦断ツアー」総距離：2778km
11月28～12月3日	TEAM A ☆ H ☆ O 「ペルーイカ砂漠マラソン」チーム19名
12月30～1月1日	MAKE THE HEAVEN 年越し合宿 参加人数：35人



サポートのお願い

～僕たちの活動を応援してください～

MAKE THE HEAVEN は、“一人一人の存在が希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる”という思いを大事にしながら、様々な活動を通して、希望の物語を創り続けて、喜びあっている世界を創って行きます。あなたの大切なご寄付が、地球に緑と笑顔を増やしていることを共有しながらみんなで喜び合える世界を創って行きます。僕たちの活動を一緒に応援してください！

感動共有プロジェクト (アミーゴ大作戦)

支援方法はまだありません。
下記、[団体運営へのご支援]
を参照ください。

挑戦プロジェクト (TEAM A☆H☆O)

- ①継続的なご支援
MAKE THE HEAVENの会員となります
<https://39auto.biz/maketheheaven/registres.php?mo=341>
- ②半発チャレンジの際に募集
<http://masacod35.wixsite.com/team-aho>

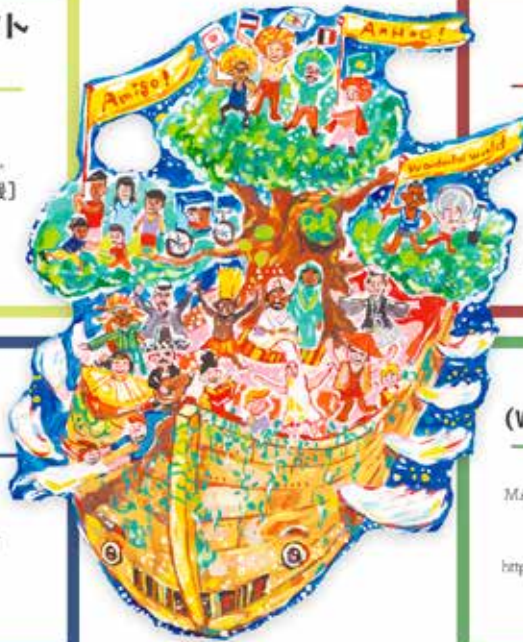
緊急支援及び復興支援 (め組JAPAN)

活動の際に募集
*2017年9月まで
熊本地震災害支援を行なっています

http://maketheheaven.com/megumi-japan/?page_id=16

植林プロジェクト (Wonderful 植林 Festival)

- ①継続的なご支援
MAKE THE HEAVENの会員となります
- ②一円募金
苗木の購入に使われます
<http://www.make-the-heaven.com/blank-5>
- ③マイツリー
あなたの木を沙漠に植えます



団体運営への支援

継続的なご支援 (MAKE THE HEAVEN会員となります)

- ①マンスリー
・毎月 1口 1000円 (何口でもお選び頂けます)
・銀行口座引き落とし or クレジット決済
- ②年間
10,000円コース / 30,000円コース
100,000円コース / 300,000円コース
500,000円コース(企業)

☆会員特典☆

- ・ニュースレターをお届けします (不定期)
- ・各種主催イベントやツアーご招待
- ・FACEBOOK会員専用ページにご参加
<http://www.make-the-heaven.com/blank-9>

単発的なご支援

- ・好きな額でご支援
- ・銀行口座へのお振込み or クレジット決済
<http://www.make-the-heaven.com/blank-9>

上映会主催者募集

ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』



どなたでも自主上映会を開催して頂くことができます！

人数制限はございません。観客人数は一人から何名でも。学校などの上映も可能です

映画の貸出費用について

一般上映の場合

● 1～10名：一律 5000 円 (税別) ● 10名以上：観客数× 500 円 (税別)

(例)100 人の場合：100 人× 500 円＝ 50,000 円 (税別) ※入場料は、主催者さまで設定をお願いします

学校上映の場合

●一律 30,000 円 (税別) ※学校上映に関するの詳細は HP 等をご確認ください

その他

会場費、運営費、宣伝費などの費用は主催者さまのご負担になりますこと、ご了承ください

スペシャルオプション

製作総指揮である "こういちマンモス" のトークライブも同時に開催できます (別料金)



いつも ありがとう (C) (R)

いつも NPO 法人 MAKE THE HEAVEN を応援して頂きありがとうございます。
理事長 川島孝一(こういちマンモス)です。

4月に入り、新しいスタートが始まりました。
MAKE THE HEAVEN は、今年で15年目を迎えることになりました。

皆様に大切なお知らせがあります。

2年前に創設者のてんつくマンからバトンを受け取って歩き出し
さらに進化をして、世の中をハッピーにしたい思いから
この度、団体名を変更することになりました。

団体名は、NPO 法人 MAKE HAPPY になります。

15年続けてきた MAKE は、多くの方のご指導のおかげで
今を歩むことができます。

そして、これからもさらに幸せのきっかけを増やしていける思いを込めて
HAPPY にさせていただきました。

自分が幸せで
みんなが幸せ
みんなで助け合い支えあい
さらに笑顔を増やすきっかけを作っていく
MAKE HAPPY を目指していきます。

今後共、皆様どうぞ
よろしく願い致します。

2018年4月
NPO 法人 MAKE HAPPY 理事長
川島 孝一

2017 年会計報告

収支計算書 (2017/1/1 ~ 12/31)

● 収入の部

(単位：円)

1. 事業収入	イベント関連収益	3,374,817	5,493,901
	その他収益	2,119,084	
2. 会費収入			4,056,487
3. 寄付金収入 ※注 1			6,908,030
4. 物品販売収益			1,780,618
5. 補助金収益			2,964,070
当期収入合計			21,203,106
前期繰越収支差額			9,479,664
収支合計			30,682,770

● 支出の部

(単位：円)

1. 事業費	災害支援活動	8,253,386	28,954,837
	本部事業 (イベントなど含む)	12,252,168	
	植林・間伐事業	3,080,446	
	挑戦	5,048,882	
	その他事業	319,955	
2. 管理費 ※注 3			1,377,577
3. 売上原価			1,577,050
当期支出合計			31,909,464
法人税等			72,000
当期支出差額			△ 10,778,358
次期繰越収支差額			△ 1,298,694

貸借対照表 (2017/12/31 現在)

● 資産の部

(単位：円)

流動資産	4,403,815
現金及び預金	3,699,155
商品	704,660
固定資産合計	3,964,128
土地	3,000,000
車両運搬具	75,922
工具器具備品	888,206
資産その他の資産合計	320,000
敷金	320,000
資産合計	8,687,943

● 負債の部

(単位：円)

流動負債	9,986,637
短期借入金	4,000,000
未払金	5,557,557
未払法人税	72,000
未払い消費税	26,200
預かり金	330,880
(正味財産の部)	
正味財産合計	-1,298,694
前期繰越正味財産	9,479,664
当期正味財産増加額	-10,778,358
負債及び正味財産合計	8,687,943

(注1) 寄付金収入内訳

(単位：円)

メイクザヘブン本部	55,000
災害支援活動	498,415
植林・干ばつ活動	1,597,623
一元募金	92,591
挑戦活動	4,664,401
寄付金収入計	6,908,030

(注2) 管理費内訳

(単位：円)

業務委託費	125,937
旅費交通費	21,880
消耗品	14,925
減価償却費	598,968
地代家賃	172,853
その他	443,014
管理費計	1,377,577



私たちは、希望の物語を創り続ける NPO です。

NPO 法人 MAKE THE HEAVEN

HP : <http://www.make-the-heaven.com>

〒 651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町 1 丁目 14 - 1

MAIL : info@maketheheaven.com